

台湾・高雄市におけるスタートアップ推進  
— 「亜湾5G AIoT 創新園区 (Asia New Bay Area-5G AIoT)」と  
「亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」の事例研究—

岸本 千佳司 (KISHIMOTO Chikashi)  
公益財団法人アジア成長研究所 (AGI) 准教授

Working Paper Series Vol. 2023-04

2023年3月

このWorking Paperの内容は著者によるものであり、必ずしも当研究所の見解を反映したものではない。なお、一部といえども無断で再録されてはならない。引用する場合は、著者名・発行年・題目および発行元名を明示しなければならない。

公益財団法人アジア成長研究所



# 台湾・高雄市におけるスタートアップ推進 — 「亜灣 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT) 」と 「亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung) 」の事例研究—

The Promotion of Startups in Kaohsiung, Taiwan:  
A Case Study of “Asia New Bay Area-5G AIoT” and “Startup Terrace Kaohsiung”

岸本 千佳司 (KISHIMOTO Chikashi)

公益財団法人アジア成長研究所 (AGI) 准教授

E-mail : kishimoto@agi.or.jp

## 要 旨

本研究は、台湾・高雄市における近年の産業革新の取り組み、とりわけスタートアップ推進について、その背景を含めて解説することを目的とする。高雄市は重化学工業を主体に発展してきた歴史があるが、近年、産業革新と伝統的産業・企業の DX 推進の必要性が叫ばれていた。このため、高雄市におけるデジタル新技術の発展と応用の推進を使命とする「亜灣 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT) 」<sup>1</sup> 開発が策定された (2021 年 5 月)。同創新園區は高雄市政府に加え中央政府の多数の部局がリソースを持ち寄って共同で推進している大規模なプロジェクトであり、5 つの産業・文化施設を活用した台湾最大規模の 5G AIoT の実証実験フィールドである。加えて、同創新園区内に、国際的スタートアップ基地として「亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung) 」が開設された (2021 年 12 月)。亜灣新創園には、複数のアクセラレータが入居し、スタートアップの育成を行う。単一の相談窓口を設置し各種サービスを提供する。近隣施設との連携による実証実験の実施、スタートアップと地元企業との連携促進、国際連携支援 (海外スタートアップのソフトランディングと国内スタートアップの国際展開) を行っている。2022 年末までに、亜灣 5G AIoT 創新園區および周辺地域に国内外の多数の大企業が進出した。様々な実証実験が実施され、地元伝統的産業・企業における 5G AIoT 技術導入による DX 推進への支援も行われた。本稿では、こうした取り組みの経緯、実施方策、成果、今後の課題について分析する。

キーワード：高雄，亜灣 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT) ， 亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung) ， スタートアップ，産業革新

JEL 分類：M13

---

<sup>1</sup> 「亜灣 5G AIoT 創新園區」の英語名は、公式ウェブサイト (<https://asiabay.org.tw/> 2023 年 3 月 15 日閲覧) では「Asia New Bay Area-5G AIoT」となっているが、他の資料 ([https://www.moea.gov.tw/MNS/english/news/News.aspx?kind=6&menu\\_id=176&news\\_id=104693](https://www.moea.gov.tw/MNS/english/news/News.aspx?kind=6&menu_id=176&news_id=104693)) では、「Asia New Bay Area 5G AIoT Innovation Park」となっている。

# 目次

はじめに.....	1
第I章 亜湾5G AIoT 創新園区 (Asia New Bay Area-5G AIoT) .....	2
1. 高雄市の産業革新の背景.....	2
2. 亜湾5G AIoT 創新園区の概観.....	4
3. 亜湾5G AIoT 創新園区の推進方策.....	6
4. これまでの成果.....	8
第II章 亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung) .....	10
1. 亜湾新創園の開設の経緯と目的.....	10
2. 亜湾新創園のスタートアップ推進戦略.....	11
2.1 基本戦略.....	11
2.2 近隣施設との連携.....	12
2.3 地元産業との連携.....	12
2.4 国際連携.....	13
3. スタートアップ支援サービス.....	15
3.1 活動スペース提供.....	15
3.2 コンサルテーション.....	16
3.3 クラウド・プラットフォーム.....	16
4. 入居企業と戦略的パートナー.....	17
4.1 入居企業の概要.....	17
4.2 アクセラレータ.....	19
4.3 戦略的パートナー.....	20
まとめ.....	22
参考文献.....	25

# 台湾・高雄市におけるスタートアップ推進

## — 「亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)」 と

## 「亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」 の事例研究 —

アジア成長研究所 岸本 千佳司

### はじめに

台湾は、周知のように半導体・電子産業およびデジタル産業分野で成長著しく、近年は、一層の経済発展と産業の新展開を目指して、スタートアップ創業、大企業とスタートアップとの協力促進、アクセラレータ等の支援機関による活動も盛んとなっている。筆者は、ここ数年、台湾のスタートアップ・エコシステム、スタートアップ推進政策、そしてアクセラレータの活動に注目し、事例研究を積み重ねてきた(岸本, 2021a, 2021b, 2021c, 2022, 2023)。台湾におけるスタートアップ関連活動はこれまで北部地域(台北市から新竹サイエンスパークにかけてのエリア)に重点があったことを反映し、筆者のこれまでの研究も主に北部地域の動向に注目したものであった。これに対して、本研究は、台湾南部地域の中心都市の1つである高雄市に焦点を当てる。高雄市は、これまで重化学工業を中心とする従来型製造業主体の産業構造で発展してきた経緯があり<sup>1</sup>、デジタル技術の応用や産業革新ではどちらかというと後れを取っていた。

しかし近年、高雄市を含む台湾南部地域の発展が重要課題として浮上してきている。すなわち、蔡英文政権は、2019年、南北の均衡発展と地域格差解消を進めるため南部地域(台南市、高雄市、屏東県)の発展計画(「大南方、大発展—南台湾發展計畫:略称 大南方計畫」)を打ち出した。これと関連し、高雄港北部の総合再開発地区に、ソフトウェアやデジタル技術の発展と応用にフォーカスした「亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)」の開発が策定された(2021年5月)。さらに同新創園區の中に国際的スタートアップ基地として「亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」が開設されている(2021年12月)。これにより、ソフトウェア、デジタル技術、5G、AIoT<sup>2</sup>のビジネスを奨励し、その担い手である北

---

<sup>1</sup> 2022年1~11月の高雄市の総売上高のうち、化学材料、基本金属、電子部品の3つのカテゴリーの合計が63%を占めていた(高雄市, 2023)。

<sup>2</sup> AIoTとは、AIとIoTを組み合わせた造語であり、「IoT機能をもつ各種製品や機器に、人工知能による機械学習を導入し、制御や運用の最適化を図ること。たとえば、エアコンに利用者の

部ハイテク企業、国際的大手企業に加えスタートアップを誘致・育成しようと努めている。これと地元の従来型企業を連結し、DX 推進を図ると同時に、スタートアップに対しても成長のチャンスを与えることを狙っている。

本研究は、こうした取り組みについて詳細かつ体系的に解説することを目的としている。第 I 章では亜湾 5G AIoT 創新園區について、第 II 章では亜湾新創園について、各々、その政策および運営の方法について明らかにする。そして、最後に全体のまとめを記す。

## **第 I 章 亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)**

本章では、近年の高雄市の産業革新の背景を説明した上で、高雄のデジタル産業とスタートアップ推進をリードする「亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)」について、その概観と推進方策、およびこれまでの成果について解説する。

### **1. 高雄市の産業革新の背景**

本節は、近年の高雄市の産業革新の背景となっている政策および産業の集積について概観する。上述のように、2019 年、蔡英文政権は、従来北部地域に偏りがちであった台湾の国土開発を是正し、南北の均衡発展と地域格差解消を進めるため台湾南部地域（台南市、高雄市、屏東県）の発展計画（「大南方、大発展—南台湾發展計畫：略称 大南方計畫」）を打ち出した。同計画は、4 つの重要政策を含んでいる。すなわち、「クラスターによる発展推進（用聚落帶動發展）」「交通により世界と連結（用交通連結世界）」「マーケティングで支える新農業（用行銷撐新農業）」「観光で繁栄を創造（用觀光創造繁榮）」である（葛祐豪, 2019）。

これを背景に、「高雄ハイテク S 字回廊」が形成されつつある（羅之盈, 2021）。これは、図 I-1 のように、高雄市の主要な科学園區、工業区等を線で繋げると S 字に見えることから来ている。表 I-1 は、S 字回廊上に位置する各地区の主要な園區・工業区の簡単な紹介である。とりわけ、路竹区の南部科学園區（南科）・高雄園區から、橋頭区の南科・橋頭園區、楠梓区の南科・楠梓園區（元は楠梓産業園區）と楠梓科技産業園區、そして仁武区の仁武産業園區にかけては半導体関連産業の集積地となることが予期されている（林耀文, 2022a）。

---

行動パターンや好みの温度を学習させ、稼働時間や温度調整を最適化させるなど。」  
(<https://www.weblio.jp/content/AIoT>) と説明される。

図 I-1 高雄ハイテク S 字回廊



(出所) 羅之盈 (2021)、Gwen (2022) を参考に作成。

表 I-1 高雄ハイテク S 字回廊上の園区・工業区

地区	園区・工業区の主要産業
路竹区	* 南部科学園区（南科）・高雄園区：光電子，バイオ医療器材，航空が主要産業
橋頭区	* 南科・橋頭園区：2021年企業の入居受け入れ開始。半導体，航空，スマート機械，ヘルスケア，産業創新が重点分野
楠梓区	* 南科・楠梓園区：元は，楠梓産業園区（高雄石油精製工場跡地）。TSMCの工場建設が発表され，南科に編入されることに決定 * 楠梓科技産業園区（元，楠梓加工出口区）：半導体後工程（パッケージング，テスト）産業。日月光半導体（ASE）の本社がある
大社区	* 大社工業区：石油化学
仁武区	* 仁武産業園区：楠梓産業園区に隣接し，航空，半導体関連企業が続々進出 * 仁武工業区：プラスチック製品，金属製品，化学材料，その他
大寮区	* 大寮工業区：金属製品，基本金属
林園区	* 林園工業区：石油化学
小港区	* 高雄臨海工業区：産業分野は多種多様（基本金属，金属製品，機械設備，非金属鉱物製品，運輸工具，化学製品，食品・飲料，電力設備等）
亜洲新灣区	* 亜灣5G AIoT創新園区：ソフトウェア，デジタル技術，AIoT

（出所）南部科学園区ウェブサイト（<https://www.stsp.gov.tw/>）、經濟部工業局ウェブサイト（<https://www.mocaidb.gov.tw/iphw/>）、亜灣 5G AIoT 創新園区ウェブサイト（<https://asiabay.org.tw/>）、ASE ウェブサイト（<https://ase.aseglobal.com/>）、林耀文（2022b）、葛祐豪（2023b）に基づき作成。

こうした半導体、バイオ医療器材等のハイテク産業の一定の発展（および今後の発展可能性）にソフトウェアやデジタル技術にフォーカスした亜灣 5G AIoT 創新園区が加わることで、5G AIoT と半導体が高雄の未来の産業発展の 2 本柱となると期待されるのである。以上の背景説明を踏まえ、次節以降では亜灣 5G AIoT 創新園区について詳述する。

## 2. 亜灣 5G AIoT 創新園区の概観

亜灣 5G AIoT 創新園区は、次の 5 つの産業・文化施設を活用した台湾最大規模の 5G AIoT の実証実験フィールドである（図 I-2）。

- 「高雄ソフトウェアパーク（高雄軟體園區）」：5G インタラクティブエンターテインメントエリア
- 「高雄埠頭クルーズターミナル（高雄港埠旅運中心）」：5G ナショナルゲート・モデルエリア
- 「高雄エキシビジョンセンター（高雄展覽館）」：5G 展示会モデルエリア
- 「高雄 e スポーツアリーナ（高雄電競館）」：5G 無人機実験エリア
- 「高雄ミュージックセンター（高雄流行音楽中心）」：5G 映像音声ストーリーミング実験

エリア

高雄ソフトウェアパークや亜洲新創園（Startup Terrace Kaohsiung）（高雄ソフトウェアパーク内の鴻海ビルの中で開設）の入居企業に加え、隣接地区（中華電信成功ビル、85ビル、台壽BOTビルなど）に進出したハイテク大企業、およびDXを目指す従来型産業の大企業などとも連携し、5G AIoT 技術の応用・実証実験が進められている（古田，2022；<https://asiabay.org.tw/> 2023年3月25日閲覧）。

図 I-2 亜灣 5G AIoT 創新園區の眺望



（出所）高雄市（2023）より引用（高雄市政府經濟發展局提供）。

亜灣 5G AIoT 創新園區の舞台である亜洲新灣（亜灣）区は、高雄港北部（前鎮区を中心に一部苓雅区・鹽埕区を含む）の総合再開発地区である。2011年に陳菊・高雄市長（当時）により再開発計画が立案され、上述の施設の建設も進められた（古田，2022）。亜灣 5G AIoT 創新園區の建設は、2021年5月に中央政府の行政院（内閣に相当）を通過した法案（「亜灣 5G AIoT 創新園區推動方案」）に基づき、中央政府と高雄市政府の共同で実施されている。その目的は、5G と AIoT 応用サービスを発展の主軸にし、亜灣地区の高付加価値化と産業変革を促進することである。同時に、創業エコシステム構築、ハイテク企業と人材の誘致により、亜灣地区を新世代技術の応用の先駆者となし、南台湾の産業 5G DX を推進する。合わせて台湾の北部と南部の均衡発展を図る（金属工業研究發展中心，2022；[https://asiabay.org.tw/about\\_us](https://asiabay.org.tw/about_us) 2023年3月25日閲覧）。2021～25年に総額110億台湾元の投資がなされる計画である（魏嘉宏，2022）。

### 3. 亜湾 5G AIoT 創新園区の推進方策

亜湾 5G AIoT 創新園区の具体的な推進方策の主なもの、図 I-3 に記されている。中央政府の複数部局—經濟部（「部」は日本の「省」に相当）の加工出口区（輸出加工区）管理處（加工處）/中小企業處（中企處）/技術處/工業局、國家通訊傳播（通信伝播）委員會（通傳會）、國家發展委員會（國發會）、交通部、文化部—と高雄市政府が各々リソースを持ち寄って共同で推進していることが分かる。以下では、6 つの推進方策の各々について説明する。

図 I-3 亜湾 5G AIoT 創新園区の推進方策

<p><b>【園区開発】</b></p> <p>高雄市 ・006688 方案 etc.</p> <p>經濟部(加工處) ・高雄ソフトウェアパーク2期開発</p>	<p><b>【スマート施設建設】</b></p> <p>通傳會 ・5Gネットワーク建設補助</p> <p>國發會 ・5Gオープンネットワーク・システム統合と実証実験</p>	<p><b>【スタートアップとの連結】</b></p> <p>經濟部(中企處) ・亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung) 開設</p>	<p><b>【実地応用】</b></p> <p>國發會, 交通部 ・エリアのスマート化推進 ・5G創新応用の実地導入</p> <p>經濟部(技術處・工業局), 文化部 ・各種実地応用, 実証実験推進の計画</p>	<p><b>【人材育成】</b></p> <p>經濟部(工業局・技術處) ・次世代技術応用人材鍛錬計画 etc.</p>	<p><b>【産業クラスター】</b></p> <p>經濟部(技術處・工業局) ・A+企業創新研究鍛錬計画 ・産業昇級創新プラットフォーム指導計画</p>
--	--	---	--	--	---

(出所) 金属工業研究發展中心 (2022) より引用し改変した。

#### ① 園区開発

- 高雄市政府：「006688 方案」制定。園区内の特定ビルに入居する際のオフィス賃料を減免する制度で、1～2 年目は全額免除、3～4 年目は 4 割引、5～6 年目は 2 割引である (2022 年末まで)。この他、融資利息や家屋税、新たに雇用した従業員の給与などに対する各種補助金も導入し、入居企業の発展の足場固めをサポートしている (魏嘉宏, 2022 ; 葛祐豪, 2022)。
- 經濟部 (加工處)：「高雄ソフトウェアパーク (高雄軟體園區)」<sup>3</sup> の 2 期開発。現パーク敷地に隣接する約 2.45ha のエリアを開発する。第 1 棟のビルの建設は既に開始されており、2026 年 1 月に完成予定、約 1 万坪 (1 坪 ≒ 3.3 m<sup>2</sup>) のオフィススペースを提供

<sup>3</sup> 高雄ソフトウェアパークは、經濟部加工出口区管理處の下、2000 年開設した。7.9 ha の面積があり、南北 2 つのエリアに計 8 つのビルを有する。2023 年 3 月 2 日時点で、ソフトウェア、デジタルコンテンツ、スマート技術応用、その他の分野の企業が 342 社入居し (スタートアップに限らない)、全体で投資額累計約 209 億台湾元、雇用創出効果 7,911 人、年売上額は 142 億台湾元以上に上る。入居企業へのサービスとして、単一窓口による対応、技術・人材・資金・ビジネスマッチング面での支援、園区内企業間の交流会開催等がある。園区内に、デジタル人材育成のための「DX 共創基地 (Digital Transformation Innovation Hub ; 數位轉型共創基地)」が設置されている (<https://www.ksp.org.tw/> 2023 年 3 月 24 日閲覧)。

できる。繁華街や生活機能の充実を企図している（經濟部技術處, 2023; 魏嘉宏, 2022）。

## ② スマート施設建設

- 通傳會：5G ネットワーク建設補助。5G 基地局の建設を補助し、亜灣 5G AIoT 創新園區での 5G 人口カバー率を 85%以上にする。特定エリア（例えば、高雄ミュージックセンター）での 5G 基地局を整備し、市民に 5G を応用した様々なサービスを体験させ、一層の普及とイノベーションの深化を促す（金属工業研究發展中心, 2022）。
- 國發會：国際 O-RAN（Open Radio Access Network）連盟認証のアジア初の OTIC（Open Testing and Integration Center）実験室の設立、および 5G オープンネットワーク・システム統合と実証実験の推進（魏嘉宏, 2022）。

## ③ スタートアップとの連結

- 經濟部（中企處）：「亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）」を高雄ソフトウェアパークの鴻海ビル内（3・8 階）に開設した（2021 年 12 月）。スタートアップの入居賃借料の減免（初年は全額免除、2 年目は半額免除）と入居するアクセラレータへの補助金もある（魏嘉宏, 2022）。

## ④ 実地応用

- 國發會：AI 識別技術と 5G オープンネットワークを結合し実証実験を行う。具体的には、高雄ソフトウェアパーク内でのライトレール衝突防止への応用、「駁二藝術特區」での体感 e スポーツである。
- 國發會：5G のスマートシティでの応用事例を提示し、5G の応用と普及を促進する。具体例は、退輔會榮民之家におけるスマートヘルス応用、高雄ソフトウェアパーク・高雄駅におけるスマートエキジビション応用、「高雄海洋科技産業創新專區」におけるスマート教育応用である。
- 交通部：鉄道、海空港、公共運輸での 5G 環境整備と AIoT、ロボット、無人機、AR/VR 等の応用により、スマート交通技術とサービスのイノベーションを促進する。
- 經濟部（工業局）：スマートシティでの生活応用普及計画。業者および地方政府と協力し、各エリアでのスマートサービスの実験と拡散、そしてソリューションの輸出を促進する。具体的な応用例は、駁二大義ライトレール駅などでの衝突防止、高雄興港での無人機による物品配送、高雄市医療施設での AI 精密看護・診断設備である（以上、次の資料による。金属工業研究發展中心, 2022）。

## ⑤ 人材育成

- 經濟部（工業局・技術處）：複数の人材育成計画（魏嘉宏, 2022）。具体例は、亜灣デジ

タル人材育成基地「CG ARK 夢想方舟」<sup>4</sup>の開設である（2021年12月）。

#### ⑥ 産業クラスター

- 經濟部（技術處・工業局）：スマート医療、スマートインフラ、スマート製造、エキジビション等での5G AIoT 応用の促進、高雄への企業の誘致、基幹事業者（中國鋼鐵、台湾中油、台湾電力、港務）スマート化へのスタートアップの協力などを通して、5G AIoT 産業クラスターを構築する（魏嘉宏，2022）。

## 4. これまでの成果

亜灣 5G AIoT 創新園區は、2022 年末までに、多数の国内外の企業を誘致し、約 154 億台湾元の投資、327 億台湾元超の生産額を記録した。その中には、Compal（仁寶）、Wistron（緯創）、AUO（友達）、ASUS Cloud（華碩雲端）などの 18 社の重要企業が含まれる。また、2023 年初頭で、亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）には 3 社のアクセラレータと 90 社のスタートアップが入居している。この他、中國鋼鐵、台湾中油、台塑企業（Formosa Plastics）等の地元の主要企業 12 社で 5G AIoT 技術導入による DX 推進を支援した。加えて、高雄エキシビションセンター、高雄 e スポーツアリーナ、高雄ミュージックセンターなどの主要テーマ施設、高雄港や駁二藝術特區などの特別エリア、高雄榮民總醫院、高雄醫學大學、高雄長庚醫院などの医療施設を含む 36 ヶ所のエリアで実証実験を実施した（經濟部技術處，2023；Startup Terrace Kaohsiung，2023）。

加えて、展示会開催実績としては次の様なものがある。①2016 年に高雄市が呼びかけ 2 年ごとに世界各地の港湾都市を招待し討論する「スマート港湾グローバルフォーラム（智慧港灣全球論壇）」（2022 年の実績：40 名の専門家参加、7 つの専門的座談会開催、20 組の港湾科技展示）、②南台湾で最大級のスタートアップ展示会である「Meet Greater South X 5G AIoT Expo（亞灣創新 X 新創大南方展會）」（2022 年の実績：のべ 1.4 万人超の来場者、スタートアップ 269 社の参加、68 件の談話会開催、117 人の投資機構の代表参加、マッチング 613 組）、③デジタル技術とアートの展示会「DiGiWave」と 2022 年に高雄で開催された「台湾設計展（Taiwan Design Expo）」中のメタバースをテーマとした特別展示「LOG ING—登入元宇宙」（2022 年の実績：のべ 43 万人以上の来場者）、④台湾最大の文化クリエイティブ展示会の「台湾文博會（Creative Expo Taiwan）」は、2022 年は高雄で開催された（高雄市，2023；<https://creativexpo.tw/en/about/about> 2023 年 3 月 28 日閲覧）。

---

<sup>4</sup> 「CG ARK 夢想方舟」は、高雄ソフトウェアパーク内に、經濟部工業局と夢想動畫（MoonShine Animation）等の企業が協力し設立された。5G AIoT 産業のデジタルコンテンツ技術と応用の発展を目指す。XR バーチャルスタジオを有しバーチャルな背景の中で共同作業ができる（王雯玲，2021）。

高雄市政府は2022年11月に「亜灣2.0計画」を発表した。さらに翌2023年2月に、亜灣5G AIoT 創新園区隣接の国営事業用の土地43.54 ha分の使用計画を変更し、同園区の一層の拡充に供するようになった。金融・ICTの中大型企業の進出を誘引し、ならびに夜間・休日の観光リクリエーション向けのオープンなベイエリアとして開発される(葛祐豪, 2023a)。

## 第 II 章 亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)

第 II 章では、亜灣 5G AIoT 創新園区内の施設のなかで、国際的視野の下でスタートアップ（成立 8 年以内）の支援を行う「亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」について詳しく解説する。亜灣新創園は、複数のアクセラレータが入居し、各々スタートアップの育成を行う。加えて、新創園管理局が単一の相談窓口を設置し各種サービスを提供する。主な支援内容は、近隣施設との連携による実証実験の実施、スタートアップと地元産業・企業との連携促進、国際連携支援（海外スタートアップのソフトランディングと国内スタートアップの国際展開）である。

以下、第 1 節で開設の経緯と目的、高雄市内の他のスタートアップ支援施設との違いについて明らかにする。第 2 節では、亜灣新創園のスタートアップ推進戦略の基本的な流れについて解説する。第 3 節では、同創新園が提供する支援サービスについて説明し、第 4 節では、入居企業と戦略的パートナーについてその内訳を分析する。

### 1. 亜灣新創園の開設の経緯と目的

亜灣新創園は、台湾南部地域におけるスタートアップ発展のため、經濟部中小企業處が「亞洲新灣區 5G AIoT 創新園區」計画とリンクさせ、5G AIoT を重点とする国際的な創業クラスターとするため設立されたものである（2021 年 12 月に開設）。亜灣新創園は高雄ソフトウェアパーク（高雄軟體園區）内の鴻海ビルに位置し（3 階および 8 階）、スタートアップの他、アクセラレータ、パートナー企業も参加する創新創業のエコシステムを形成している。スタートアップと地元企業との協力による伝統的産業の変革および特色あるスタートアップの発展を目指している。合わせて、スタートアップおよび人材が国境を越えて行き来する台湾南部における国際的連携の拠点となろうとしている（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1482> 2023 年 3 月 17 日閲覧）。

亜灣新創園の英語名は「Startup Terrace Kaohsiung」である。「Startup Terrace」は、元々、2019 年 10 月に台湾北部の新北市林口に開設されたスタートアップ基地の「林口新創園」の英語名であり、經濟部中小企業處の管轄下にある。亜灣新創園も經濟部中小企業處が主導し、南北の均衡発展を考慮し、高雄市（市政府、港湾、電力や鉄鋼などの国営事業）と協力して開設された。高雄市は元々、従来型の重化学工業が主力産業であったが、その後新たな産業（半導体、光電子、医療器材、ソフトウェア等）も徐々に発展してきた。これに加えて、スタートアップ人材育成のための拠点が必要とされたのである（yawan-2023）。

施設の実際の管理運営については、林口新創園では、「台北市電腦商業同業公會 (Taipei Computer Association : TCA)」が担っている。他方、亜灣新創園は、国立高雄大學が主に担

っている（2022年は、高雄大學と資訊工業策進會〔Institute for Information Industry：III〕が担っていた）。運営スタッフの人数は、20～25人程度である（yawan-2023）。

周辺のスタートアップ等を支援する施設との違いや役割分担について説明する。まず、高雄市政府が経営するスタートアップ基地「KO-IN 智高點」等<sup>5</sup>との違いは、これらが主には国内のスタートアップによる国内でのビジネスを支援対象としているのに対して、亜灣新創園は国際的なスタートアップ基地の位置付けである。インバウンド（海外から台湾・高雄へ）とアウトバウンド（台湾・高雄から海外へ）の両方を業務範囲としている。

次に、亜灣新創園は、上述のように高雄ソフトウェアパーク内の鴻海ビルに位置しているが、高雄ソフトウェアパークにも多数の企業（現在、300社余り）が入居し支援を受けている。ただし、入居している企業には設立後相当の年数を経たもの、あるいは既にかかなりの規模に達した北部企業の分社も含まれる。産業分野は、ソフトウェア、デジタルコンテンツ、スマート技術応用、その他とやや多様化している。他方、亜灣新創園は成立8年以内のスタートアップが対象で、産業分野は5GおよびAIoTの応用にフォーカスしている（yawan-2023）。

## 2. 亜灣新創園のスタートアップ推進戦略

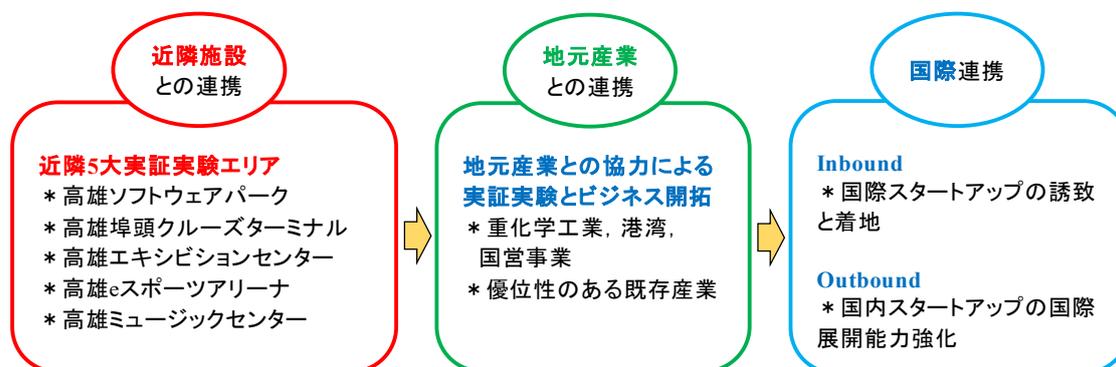
### 2.1 基本戦略

亜灣新創園の基本的なスタートアップ推進戦略は、①実証実験エリアとして近隣施設と連携→②地元産業との連携による実証実験とビジネス開拓→③国際連携推進（インバウンドとアウトバウンド）、という流れである（図II-1）。以下で、3つの連携の各々について詳しく説明する。

---

<sup>5</sup> 高雄市には5つのスタートアップ基地（新創基地）が立地する。すなわち、KO-IN 智高點（高雄智慧科技創新園區）、DAKUO（高雄市數位内容創意中心）、駁二共創基地（PIER-2 BASE）、南部物聯網智造基地（IoT Service Hub）、そして亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）である。前3者は高雄市政府の運営であり、後2者は各々中央政府の經濟部工業局および同中小企業處の管轄下にある。

図 II-1 亜灣新創園のスタートアップ推進戦略



(出所) ウェブサイト (<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1482> 2023年3月21日) から引用し若干の改変を加えた。

## 2.2 近隣施設との連携

亜灣新創園の近隣には、次のような実証実験エリアとして活用できる5つの施設があり、その担当応用分野を紹介する(魏嘉宏, 2022; <https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1486> 2023年3月17日閲覧)。

- 高雄ソフトウェアパーク (高雄軟體園區) : eコマース、5G
- 高雄埠頭クルーズターミナル (高雄港埠旅運中心) : スマート観光、港湾業務応用
- 高雄エキシビジョンセンター (高雄展覽館) : スマート展示館、新形態展示会
- 高雄eスポーツアリーナ (高雄電競館) : スマート・リクリエーション、5G無人機競技
- 高雄ミュージックセンター (高雄流行音樂中心) : バーチャル共演、ホログラフィック・プロジェクション

実証実験の手配は、アクセラレータ選抜のスタートアップならアクセラレータを通じて行う。加えて、亜灣新創園管理局のプロジェクト・オフィスに直接申請する方法もある。亜灣新創園の施設内にも実証実験スペースがある(yawan-2023)。

## 2.3 地元産業との連携

ここでは、地元産業との協力による実証実験とビジネス開拓について説明する。高雄市は重化学産業や従来型製造業の比重が大きく、これらの産業分野の企業では、近年、経営改革やDXが必要となっている。まず、グリーンテクノロジーや省エネ技術を活用し生産プロセスの効率化を進める必要がある。これに向けた企業とスタートアップとの連携のために、例えば、「2022 Greentech Startup Challenge Contest (緑色科技新創奨励競賽)」が開催された。これは經濟部中小企業處の主催で、4月から11月にかけて、林口新創園と亜灣新創園の両方で実施された。17社の大企業が、各々、省エネや廃棄物処理に関連して自社が直面する問

題を出題し、スタートアップがそれへの解決策を提案する。企業による 3 段階の審査を経て、3 回目の最終審査を通過したスタートアップは各々合計 100 万台湾元の奨励金を獲得する。その後、解決策が企業に実際に導入され、その成果が追跡調査される（經濟部中小企業處，2022；[https://www.yawan-startup.tw/en/News\\_Card\\_Content.aspx?n=1532&s=4583](https://www.yawan-startup.tw/en/News_Card_Content.aspx?n=1532&s=4583) 2023 年 3 月 21 日閲覧）。面談調査では、次の様な発言があった。「このようなコンテストを通じて、我々はスタートアップと従来型産業の大企業とをマッチングする。スタートアップは成長の機会を得る。同時に、地元の従来型産業や国営事業の企業は、このようなコンテストで我々のスタートアップの実力を目にする。... この他、我々は幾つかの展示会を開催している。これを通して、従来型産業であれハイテク産業であれ、地元の企業を招き、スタートアップを紹介する」（yawan-2023）。

ウェブサイトによれば、高雄市は優位性を持つ 6 つの産業の集積があり、亜灣新創園は、スタートアップがこれらの産業分野の企業と共同で実証実験を行い、あるいはビジネス上の協力を行う機会を提供するという。6 つの産業とは、金属加工業、情報電子産業、精密機械産業、デジタルコンテンツ産業、バイオテクノロジー医療産業、海洋港湾産業である（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1486> 2023 年 3 月 21 日閲覧）。

面談調査で、これらの産業でのスタートアップ技術の応用可能性について問うたところ、次の様な例が提示された。「バイオテクノロジーに関しては、高雄では AI の応用が主である。例えば、レントゲン写真や MRI の検査結果の判断で、AI で医師の判断を支援する。高雄市の比較的大規模な病院等とアライアンスを組み、新しいデジタル技術で医師の判断の負担を軽減し、効率と精度の向上に繋げようとしている。次に港湾については、造船業あるいは沿岸警備での活用もある。伝統的な操船は大部分目視に頼っていたが、亜灣新創園のスタートアップが AR/VR を活用し、一層多くの情報を操船パネル上に統合し表示できるようにした。これを、観光などの別分野に応用することもできる。例えば、クルーズ船が来航した際、かつては接岸した後に観光・消費行動が始まっていたが、スタートアップの技術により、接岸する前に高雄のことを知ることができるようにする。つまり、AR により、透明なガラスの上に、例えば、このビルが高雄 85 大樓（85 Sky Tower）だと表示する。あるいは、高雄港の歴史について解説する。このように、デジタル技術の様々な活用が考えられる」（yawan-2023）。

## 2.4 国際連携

亜灣新創園は国際スタートアップ基地の位置づけであり、日本および東南アジアとの交流を進めている。高雄市は従来から日本企業との関係が密接で、亜灣新創園も開設当初から日本との連携を開始し、2022 年 10 月には、台湾のスタートアップを伴い東京、大阪、京都へ訪問し、また日本のスタートアップを高雄に連れてくるという具合に交流を進めた。日本側のカウンターパートとして、日本台湾交流協会高雄事務所がある。また、みずほ銀行を含

む日本企業とも良好な関係がある。日本企業側も、亜灣新創園に入居しているスタートアップと連携し新ビジネスの開拓を進めようと希望している。その後、シンガポールとの相互ソフトランディング支援の提携を結んだ。シンガポールはユニコーンの企業数ではアジア有数であるため重視されている。加えて、インドネシアも交流対象となっている。經濟部関連の各部署・機関が異なる国と協力を進めており、現在、亜灣新創園の分担は、以上の3ヵ国なのだという (yawan-2023)。

さて、スタートアップの国際連携支援には、インバウンド（海外スタートアップの誘致と着地）とアウトバウンド（国内スタートアップの国際展開）の2つの方向がある。まず、インバウンド、すなわち、海外スタートアップおよび人材向けのソフトランディング支援（オンラインとオフライン両方を通して）に関して説明する。申請資格としては、①対象：台湾南部のスマート製造、クリエイティブ・コンテンツ/レクリエーション、港湾応用等にフォーカスした国際チーム、②技術領域：5G、AIoT、クラウド応用の製品・サービス、③期間：原則1週間から1ヵ月。審査に合格したものには次のような支援サービスが提供される（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1488>；<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1536> どちらも2023年3月18日閲覧）。

- 無償でのコワーキングスペース（2席、1ヵ月まで）および公共設備の使用。
- 単一窓口による各種コンサルテーション（財務会計、法律、税務、創業者ビザ、企業設立法規等）。
- 園区のアクセラレータやスタートアップとの交流機会。
- 実証実験エリアの手配。
- 台湾南部の中大型企業、ベンチャーキャピタル（VC）、戦略的パートナー等とのマッチング。
- その他（アジア市場分析報告提供、展示会参加）。

面談調査で、海外スタートアップと地元企業や投資家等とのマッチングについて問うたところ、次のような説明があった。「かつてシンガポールからチームが来たとき、我々は2つの方法で彼らに対する認知度を高めた。第1に、展示会への参加である。例えば、スマートシティ展、新創大南方展會で、チームに展示会の一区画を提供し、地元組織（企業、銀行、VC、地方政府等）へPRさせた。第2に、幾つかのセミナーに、関連する産業の大企業を招待し交流させ、マッチングを助けた」(yawan-2023)。

次に、アウトバウンド、すなわち、台湾スタートアップによる国際展開への支援について説明する。面談調査によれば、幾つかの段階がある。①スタートアップが海外市場展開を準備しているなら、当地のアクセラレータと繋げるように手助けする。②その後、当該市場への進出が適切だと感じたら、ソフトランディングの計画で手助けする。③ソフトランディング後、持続的に成長しそうなら、当地の企業とのマッチングを開始する (yawan-2023)。

③に関して敷衍するなら、亜灣新創園がフォーカスしている国（現在は、日本、シンガポ

ール、インドネシア) 以外でマッチングが必要なら、関連する機関と相談する。例えば、相手国・都市が高雄市の姉妹都市なら同市を通してアクセスする。それ以外なら、經濟部に相談する。当該国の外務省の出先機関に通常、経済問題担当部局があり、そこを通してアレンジする、といった具合である (yawan-2023)。

### 3. スタートアップ支援サービス

前節で、実証実験エリア、地元産業との連携、国際展開に関する亜灣新創園のスタートアップ支援活動について明らかにした。本節では、これ以外の領域での支援サービスについて解説する。

#### 3.1 活動スペース提供

亜灣新創園は鴻海ビルの3階および8階を専用の活動スペースとして有している(合計床面積4,486 m<sup>2</sup>)<sup>6</sup>。その中には、次の様なエリアがあり、その内容紹介をする(Startup Terrace Kaohsiung, 2023; [https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1485&sms=11460](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1485&sms=11460) 2023年3月17日閲覧)。

- 戦略情報室：高雄関連のデータ収集、スタートアップへの情報提供、戦略策定に使用。
- 実証実験スペース：アイデアを披露し、実証実験により製品開発を促進。
- 独立オフィス：25 部屋。
- コワーキングスペース：130 席。
- 休憩エリア/バー：共有キッチン、レクリエーション・スペース。
- デモルーム：デモと集会を行う。

若干の補足をすると、独立オフィスは、部屋のサイズ(大・中・小)により、賃借料(月額)は各々、2万2,000台湾元、4万4,000台湾元、6万6,000台湾元。コワーキングスペースは、月額で1席3,600台湾元である。そして、独立オフィスおよびコワーキングスペースを賃借りした場合、以下のサービスも付随する。①基本インフラサービス：水道電気、管理、インターネット、郵便、出入り口の警備、セキュリティ・モニタリング。②公設スペース使用：会議室、休憩エリア、事務エリア、給湯室、デモルーム、実証実験スペース、共有キッチン、国際ピッチ・スペース等(全部で200坪以上)。③専門支援サービス：国際資源との連結、アクセラレータのコンサルティング、ビジネスマッチング、メンタリング、関連サービス(法律、特許、ローン等) (<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1489> 2023年3月

---

<sup>6</sup> 面談調査で、鴻海との協力関係について問うたところ、「特別な協力関係はない。単に場所を借りているだけ。賃借料も相場に基づいて支払う必要がある」とのことであった(yawan-2023)。

17 日閲覧)。

### 3.2 コンサルテーション

「亜灣新創園プロジェクト・オフィス（亞灣新創園專案辦公室）」では、以下の様な各種問題に対応する単一のコンサルテーション窓口を開設している（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1487> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

- 企業関連：会社設立、登記のプロセス、会社規定の企画、移転、総合法規（税務、特許申請、発展条例、契約）、銀行金融。
- 経営関連：法律、税務企画、会計制度。
- 各種資源関連：政府補助申請、市場・ビジネスのマッチング、各種業務開拓、資材所要量計画。
- 国際関連：就業ゴールドカード/就業 Pass カード<sup>7</sup>、創業者ビザ、国内外アクセラレータ・プログラムとの連結。

この他、經濟部智慧財産局が知財に関して、毎月定期的に 1 対 1 のオンラインのコンサルテーションのサービスを提供している（事前予約制）（<https://www.yawan-startup.tw/News3.aspx?n=1556&sms=11536> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

### 3.3 クラウド・プラットフォーム

亜灣新創園は世界の 3 大クラウド企業、すなわち、AWS（Amazon Web Services）、Microsoft Azure、Google Cloud と提携し、クラウド・プラットフォームのサービスを提供している。狙いは、「これら国際的企業のクラウドリソースと訓練課程を引き入れ、南部地域のクラウド人材の育成を助け、台湾のスタートアップと中小企業のクラウド専門技術部署の立ち上げと応用を加速する。さらに国際市場展開の経験を積ませ、スタートアップによる国際業務開拓を助け、また南部台湾企業のクラウド活用 DX を促進する契機とする」というものである。大まかな支援の流れは、イノベティブなクラウド製品創造を支援→大企業とのマッチングによる実証実験→中大型展示会等への参加推薦であり、合わせて、マーケティング推進のリソース、あるいは資金・ビジネスのチャネルとの連結が行われる（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1555> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。3 大クラウド企業の各々のプログラムの内容は、表 II-1 に整理されている。

面談調査で確認したところ、3 社のプログラムの内容は色々異なる部分があるものの、実

---

<sup>7</sup> 「就業金卡（Employment Gold Card）/就業 Pass 卡」とは、就労許可、居留 VISA、外僑居留証及び再入国許可の 4 つの機能が付いた台湾での就業用のカードである（<https://goldcard.nat.gov.tw/en/> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

質的な内容を大まかに整理するなら、人材育成、スタートアップの製品開発支援、および大企業とのマッチングによる実証実験と市場開拓支援の3つになる。そして、これは事実上、アクセラレータ・プログラムと同じと考えてよいのだという (yawan-2023)。

表 II-1 亜灣新創園クラウド・プラットフォーム企業のプログラム内容

企業	プログラム内容
AWS	AWSクラウド・ジョイントイノベーション計画の3本柱は、園区のスタートアップ計画支持、企業とスタートアップの共創クラスター、およびクラウドマーケットと海外展開である。DX人材育成、企業のDX、企業とスタートアップの協力からスタートアップ支援までの一連のプログラムを提供し、台湾のイノベーションとスタートアップ・エコシステムの成長をサポートする。
Microsoft Azure	Azure Cloud ポイント、プロ級の技術とマーケティングのコンサルティングチーム、およびエコシステムパートナーとVCを包括するMicrosoft Startups Founders Hubのリソースと専門的な技術サポートを提供する。Microsoft の豊富な国際的テクノロジーとリソースをスタートアップチームに注入し、発展可能性のあるアプリケーション・ソリューションが Marketplaceを通じて国際市場にリンクすることを助け、事業の急速な成長を実現させる。才能、創意、技術、市場の総合的実力の向上を指導し、完成度の高いビジネスモデルの構築に繋げる。
Google Cloud	Acer AI Cloud (宏碁智雲資訊) は、Google Cloudの戦略的パートナーであり、Googleのクラウドサービスを提供し、並びにAcerグループのリソースと組み合わせ、業界とのリンク、マーケティング、専門的な指導、市場参入、海外展開などを含むスタートアップに必要な完備されたサービスを提供する。Acer AI CloudとGoogleは共同でスタートアップチームの指導にリソースを投入し、ビジネスモデルがうまく軌道に乗り国際展開するのを加速する。

(出所) ウェブサイト (<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1555> 2023年3月18日閲覧) の説明を引用し意識した。

## 4. 入居企業と戦略的パートナー

亜灣新創園の入居企業は、スタートアップ事業 (設立8年以内が条件)、国際級アクセラレータ、その他の共創パートナーの3タイプがある。個人名義では入居申請できない。入居申請が許される産業分野として、「AIoT、5G、スマート・レクリエーション、海洋観光、およびその他スマート応用等関連領域を主とする」と規定されている ([https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023年3月18日閲覧)。以下本節では、入居企業 (特にスタートアップ) の概要、アクセラレータ、および戦略的パートナー (入居の有無にかかわらず) の3つについて、各々解説する。

### 4.1 入居企業の概要

表 II-2 は、亜灣新創園のウェブサイトの「入居園區 (進駐園區)」の頁 (<https://www.yawan->

startup.tw/cl.aspx?n=1479 2023年3月18日閲覧)に基づき、入居企業および既に卒業した企業の内訳を示したものである。2023年3月18日閲覧時点の入居企業は、全体で75社、うちスタートアップ(新創)が73社、アクセラレータが2社である。少し前(2023年2月9日)に入手していた別の資料によれば(Startup Terrace Kaohsiung, 2023)、スタートアップが90社、アクセラレータが3社とある。この食い違いは、後者が審査承認済み、前者が既に入居契約締結済みの企業数であることによる(yawan-2023)。なお、亜灣新創園が関与しているスタートアップは、バーチャル入居も加えると総数は200社超であり、上述のクラウドサービス業者との関連も含めると、非常に多数のスタートアップと繋がりがあるといえる(yawan-2023)。

表 II-2 亜灣新創園の入居企業(契約済み)および卒業企業(2023年3月18日閲覧時点)

	入居企業	卒業企業
全部	75	19
アクセラレータ	2	5
スタートアップ	73	14
デジタルコンテンツ	11	2
AIoT	17	5
クラウド応用	10	2
スマート医療	10	2
デジタルマーケティング	7	0
5G	3	2
AI応用	14	0
その他	11	2

(注1) 複数のビジネス分野に重複して分類されているスタートアップがあるため、各分野の企業数合計は、スタートアップの企業総数を超える。

(注2) ウェブサイトの集計に若干の不備があったので、筆者が補正した。

(出所) ウェブサイト(<https://www.yawan-startup.tw/cl.aspx?n=1479> 2023年3月18日閲覧)に基づき作成。

こうした数値によると、亜灣新創園開設より1年余り経た時点(概ね2023年2~3月)で入居しているスタートアップ(設立8年以内のみ)は、入居契約済みベースで73社(審査承認済みベースでは90社)、ビジネス分野の内訳では(複数のビジネス分野に重複して分類されているスタートアップもある)、AIoTやAI応用が多く、デジタルコンテンツ、クラウド応用、スマート医療も相当数に上るものの、5Gは未だ少ない。既に卒業したスタートアップも14社ある。

面談調査(2023年3月7日実施)によれば、入居するスタートアップの出身地は、南部が45%、中・北部が55%である。北部には林口新創園があるのに何故中・北部のチームがわざわざ亜灣新創園に来るのかと問うたところ、「方向性が違う。亜灣新創園は、従来型産業や国営事業との連携がある。また、国際連携でも、林口新創園は主に米国・欧州にフォー

カスしているのに対して、亜灣新創園はアジア、特に日本や東南アジアにフォーカスしている。もし林口のチームが、米国・欧州以外にアジアでもビジネスしたいなら、亜灣への入居を希望するかもしれない」とことであつた (yawan-2023)。

スタートアップとして入居するには次の3つのルートがある。①直接、亜灣新創園の管理局に申請する。②亜灣新創園に入居しているアクセラレータに選抜される。③上述のクラウド・プラットフォーム企業 (AWS、Microsoft Azure、Google Cloud) の推薦を受ける。最終的には、經濟部中小企業處が立ち上げた審査委員会により審査と承認を受ける (yawan-2023)。

スタートアップが、例えば、既に台北で会社登記している場合、高雄のオフィスを設ける形で入居申請もできる。高雄での会社登記が奨励されるものの、必須ではない。ただし、実際に人員を派遣し入居する必要がある。同様に、他のスタートアップ基地あるいは育成機関に既に入居しているスタートアップでも、亜灣新創園に入居申請できる。ただし、実際に人員を派遣し入居する必要がある。スタートアップの入居期限は原則2年間で、さらに1年間の延長を申請できる (延長は1回のみ) ([https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023年3月18日閲覧)。アクセラレータの選抜により入居したスタートアップは、基本的に当該アクセラレータ・プログラムの期間 (通常3ヵ月～半年程度) 終了に伴い退出する。ただし、そのスタートアップが更なるリソースや支援を必要とする場合、亜灣新創園での入居を上述の期限内 (原則2年+延長1年で最長3年間。アクセラレータ・プログラム期間もこれに含まれる) で延長するよう申請できる。

スタートアップが入居するに際して供与される補助金には次の2種類がある。①アクセラレータ選抜については、アクセラレータに対する補助金がある。②直接、亜灣新創園の管理局に入居申請した場合は、審査に合格するとオフィスあるいはコワーキングスペース賃借料の優遇がある (yawan-2023)。

なお、面談調査で、亜灣新創園に入居しているスタートアップの間でコミュニティが形成されているかどうかについて問うたところ、LINEを使用したバーチャルなコミュニティが存在するとのことであつた。加えて、園区の管理局は、一方で園区内のスタートアップ間の協力を期待して、他方で外部団体との協力促進のため、リアルの交流活動を開催しているという (yawan-2023)。

## 4.2 アクセラレータ

亜灣新創園に入居しているアクセラレータ<sup>8</sup> は、2022年は7社、2023年は3社である。加えて、上述の様に3大クラウド・プラットフォーム企業 (AWS、Microsoft Azure、Google Cloud) のスタートアップ支援プログラムもアクセラレータとみなすことができる。アクセラレータの入居申請や評価については、經濟部中小企業處が立ち上げた審査委員会で審査

---

<sup>8</sup> アクセラレータの定義や特徴についての詳細な英語文献サーベイは、田代・岸本 (2021) を参照せよ。

される (yawan-2023)。

これを詳しく解説するなら、亜灣新創園の開設初年 (2022 年) に入居していたアクセラレータは、BE Health Ventures (比翼生醫創投)、Foodland Ventures (扶田資本)、SparkLabs Kaohsiung、MuckerLab Taiwan、FHnet (富鴻網)、United Innovation Accelerator (聯合創新加速器)、In-Trust Cloud Technology (銀創雲端科技) の 7 社であった (<https://www.yawan-startup.tw/cl.aspx?n=1479> 2023 年 3 月 22 日閲覧)。アクセラレータの入居期限は原則 3 年で、さらに 1 年間の延長を申請できる (延長は 1 回のみ) ことになっている ([https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023 年 3 月 22 日閲覧)。ただし、毎年、KPI (Key Performance Indicator) の達成率についてチェックされ、期末審査で成績不良だと補助金を減額され、さらに翌年のプログラム継続の申請で却下される。こうしたチェックは年度の途中でもなされており (期中審査)、運営改善のための提案がなされる。2023 年に入居しているアクセラレータは、上述の 7 社のうち、BE Health Ventures と Foodland Ventures、および新たに入居した flyingVest Ventures (曙光網路加速器) の 3 社である。つまり、残り 5 社は、成績不良により 1 年間のみで退去させられたのである (yawan-2023)。

仮にアクセラレータの成績が良好でも、入居期限 (原則 3 年+1 年延期可) が来たら退去しなければならない。面談調査でその理由を尋ねたところ、継続的に新たなアクセラレータが入ってきて異なるプログラムを提供し、またアクセラレータ間でも交流の機会があることを期待しているからだという。また、「林口新創園と亜灣新創園では、入居しているアクセラレータも異なる。もし亜灣のアクセラレータが好成績なら、将来林口に行く機会もある。逆に林口のアクセラレータが優良なら、期限満了後に亜灣に来て入居してもよい」とのことであった (yawan-2023)。

スタートアップと大企業・投資家などとのマッチングについては、各アクセラレータが行うのが 1 つのやり方である。加えて、亜灣新創園管理局が行うこともある。例えば、みずほ銀行が投資対象を探しに来たとき、管理局がマッチングした。エンジェル投資家あるいは台湾の投資銀行が投資先を探しに来たときも、管理局が手助けする (yawan-2023)。

#### 4.3 戦略的パートナー

亜灣新創園の戦略的パートナー (战略合作夥伴) として、ウェブサイト ([https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1541&sms=11525](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1541&sms=11525) 2023 年 3 月 20 日閲覧) には、表 II-3 に示されるような 17 の企業・団体が掲載されている。スタートアップとの協力により DX およびイノベーション促進を希望する企業に加え、スタートアップ支援事業に従事する団体も含まれている。

筆者が亜灣新創園訪問時 (2023 年 2 月 9 日) に入手した資料によれば、亜灣新創園の戦略的パートナーは 40 社である (Startup Terrace Kaohsiung, 2023)。その後確認したところ、

この数値がより新しいものだという。その内訳は、台湾南部地域の中・大型企業が主である。協力の方法は、次の3つである。①スタートアップがパートナー企業のサプライチェーンに入る。②パートナー企業のビジネスモデルあるいは製造上のDXに際して、スタートアップがそれを助ける。③パートナー企業が、自社が直面する問題を踏まえて課題を出題し、スタートアップがその解決策を提案する (yawan-2023)。

表 II-3 亜湾新創園の戦略的パートナー (一部)

企業名	主な事業内容
佳世達科技 (Qisda)	世界的なLCDプロジェクター・メーカー、スマート・ソリューション・プロバイダー、医療器材メーカー、グループで2つの総合病院も経営
TSUCREA	起業支援サービス事業、クリエイターを支援するクリエイティブ創造事業、日本への進出支援
酷碼科技 (Cooler Master)	PC関連ハードウェア (冷却システム、ケース、電源供給器等) メーカー
聚陽實業 (Makalot Industrial)	織物・衣服メーカー、WIIMブランド
數位時代-創業小聚 (Meet Startup by Business Next Media)	起業コミュニティ活動
高雄雲端聯合創新中心 (Kaohsiung Cloud Joint Innovation Center)	AWSのスタートアップ育成、DX人材育成、企業DX・オープンイノベーション支援
微軟新創加速器 (Microsoft for Startups)	Microsoft のアクセラレータ
國立中山大學南區促進產業發展研究中心 (Southern Taiwan Industry Promotion Center)	中山大學付属の研究センター。南部地域の産業発展推進プロジェクトの受託実施を行う
雲高科技 (DYNAMIC COMPUTING TECHNOLOGY)	鴻海グループの子会社。データセンター、クラウドアーキテクチャ・サービス
宏碁智雲資訊 (Acer AI Cloud)	Acerグループの子会社。企業へのクラウドサービス提供
創夢市集 (DIT Incubator & Venture Management)	娯楽生活分野の企業へフォーカスしたVC
盛宇創新 (Rainmaking Innovation Taiwan)	英国に本部があり世界各所にオフィスを持つ国際的アクセラレータ
KK Fund	アーリーステージの東南アジア・ビジネスにフォーカスしたVC
若水數位評價	「若水新創推進器」を運営。VC兼財務分析専門家のチームにより、スタートアップに長期間 (最低2年) の包括的サービスを提供する
邁達特數位	明基佳世達グループ。ICTソリューション・プロバイダー
全家便利商店 (FamilyMart)	コンビニエンスストアへの新技術応用、新式小売業、新式チェーン店経営モデルを模索
LINE 新星計劃	LINEをプラットフォームとする新ビジネス開発

(出所) ウェブサイト ([https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1541&sms=11525](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1541&sms=11525) 2023年3月20日閲覧) に基づき作成。

亜灣新創園の戦略的パートナーとなるために企業は会費を支払う必要はないが、スタートアップとの協力を要する資金・資源は企業側が負担する<sup>9</sup>。協力方法の③は上述の「Genentech Startup Challenge Contest」と類似の仕組みだが、コンテストの賞金は政府が支出したのに対して、ここでの協力を要する資金はパートナー企業から提供される点異なる。この他、企業が新ビジネスチャンスをつかんだとき、人材が十分でないため、スタートアップ・チームを招き共同で行うという形の協力もあるという (yawan-2023)。

## まとめ

これまでの記述を整理・要約し、近年の高雄市における産業革新の流れを図示したものが、図まとめ-1 である。既に述べたことと重複するが、ここで一通り説明する。まず、高雄市の現状の土台には「重化学工業都市としての発展の歴史」が分厚く横たわっている。かつて高雄の繁栄を支えた重厚長大型の伝統的産業も、近年では環境汚染の元凶ともなり、「伝統的産業の革新、企業の DX の必要性」が叫ばれていた。これに対して、高雄も手をこまねいていたわけではなく、第 I 章の第 1 節で言及したように南部科学園区・高雄園区や高雄ソフトウェアパーク（2000 年開設）などで「\*半導体、光電子、バイオ医療器材、ソフトウェア等のハイテク産業の一定の発展」を進めていた。また今後、橋頭区、楠梓区、仁武区などの「\*一部地域は半導体関連産業の集積地へ」と成長していくことが予想されている。

高雄市の強みの 1 つは、ナショナルゲートウェイである「高雄港・高雄国際空港」を擁していることだが、とくに高雄港の北部地域では、「亜洲新灣区再開発計画（2011 年～）」も着手されていた。これにより、高雄エキシビジョンセンターや高雄 e スポーツアリーナ、高雄ミュージックセンターなどの、後に 5G AIoT の実証実験フィールドを構成する産業・文化施設が建設された。加えて「中央政府：南北均衡発展→『大南方計畫』（2019 年～）」が後押しとなり、『『亜灣 5G AIoT 創新園区』推進／『亜灣新創園』開設（2021 年）→5G, AIoT, デジタル技術の発展・応用をリード, 国際連携開拓」という本稿で詳説した取り組みへと結実したのである。

この亜灣の一大プロジェクトは、「地政学的変化：台湾企業の国内回帰、中国に流れていた資金・企業のシフト→ その一部が南台湾へ来る可能性」とも相まって、「国内ハイテク大企業・国際大手デジタル企業の高雄進出」へと繋がった。同時に、こうしたビジネスチャンスの勃興は、「創業者・専門人材の高雄への回帰・流入」という動きをも刺激することとな

---

<sup>9</sup> 面談調査で、パートナー企業が支出する資金額について問うたところ、「我々の調査によれば、昨年（2022 年）一部の企業は、単独で大体 500 万台湾元以上の資金投入をしている」とのことであった (yawan-2023)。

る。そして、これらの要素が最後に「\*南台湾の国際的創業クラスター構築」および「\*伝統的産業のDX推進、半導体等既存ハイテク産業と5G、AIoTの融合→新たな産業発展」へと帰結すると期待されるが、まだその途上なので図では破線矢印で繋げてある。

期待通りのゴールに行き着くかどうかは当分の間観察する必要がある。もし、高雄市の取り組みが成功するとすれば、先ず地方レベルで新興産業育成の取り組み、既存産業の問題改善への努力をかなり以前から地道に続けてきており、これに近年の新たな科学技術（5G、AIoT）の勃興、中央政府の政策、国際地政学的変化が加わり、そして地元資源（とくに高雄港）を活かし、地元伝統的企業とスタートアップとの連携によりWin-Winの関係（つまり、前者はDXを進め、後者はビジネスチャンスを得る）を構築するという、全体として合理的でまとまりのよい戦略ストーリーが描けていることが理由であろう。

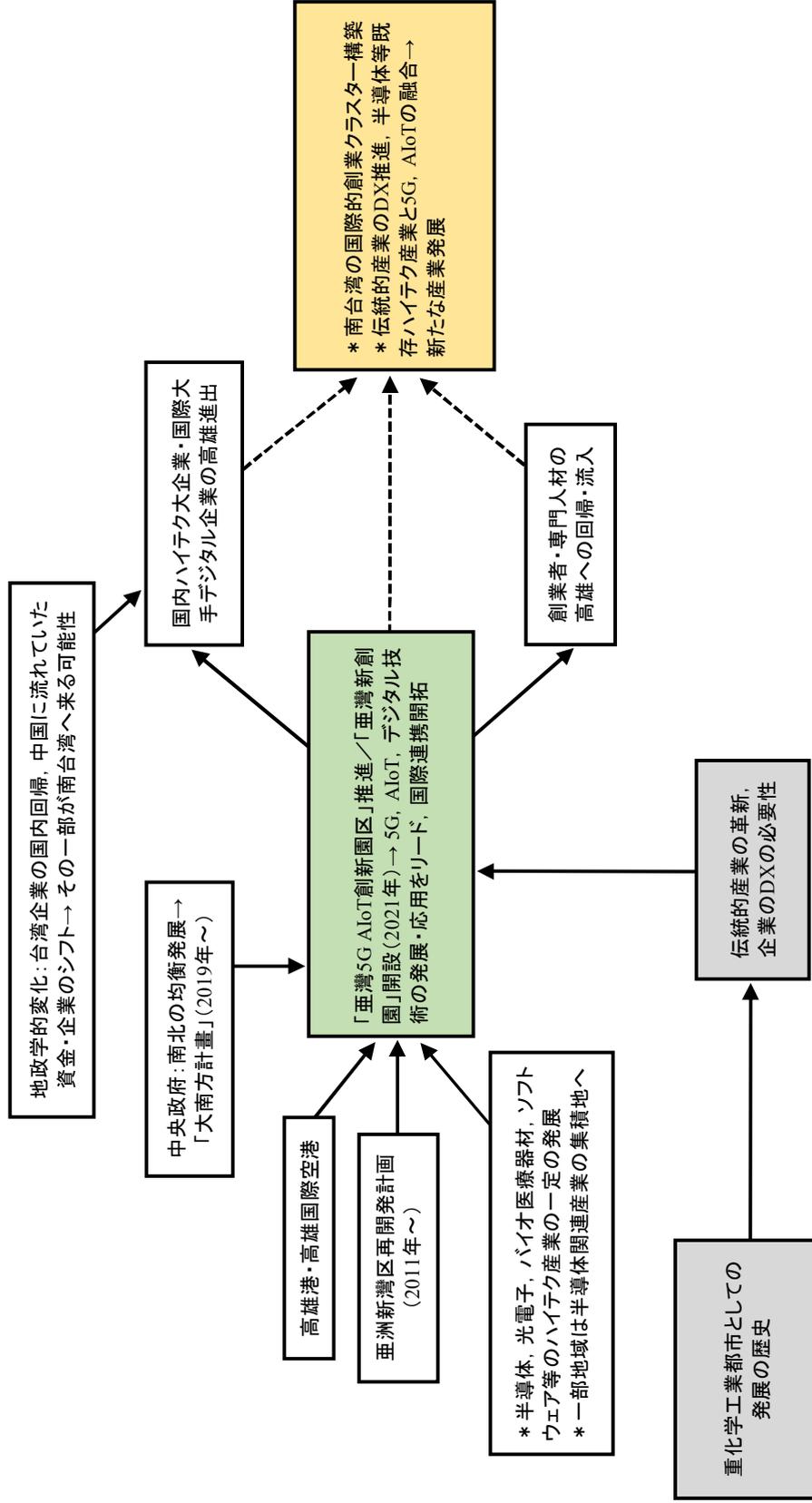
最後にこれを踏まえ、今後観察・研究すべき課題をあげよう。第1に、亜灣5G AIoT 創新園區の推進は、地方政府と中央政府（そしてその中の多数の部局）を巻き込んだ、かなり大規模で複雑な取り組みであるが、これを無駄なく効果的に実施するにはどのような調整の仕組みが必要かということである。

第2に、地元伝統的企業とスタートアップとの連携によるWin-Winの関係構築は、うまくいけば、後発性・過去の発展史の重荷を逆用し、一気に5G AIoT活用の最前線に躍り出ることにつながる秘策とも言えるが、これが成功する条件は何であるかということ。

第3に、スタートアップ基地としての亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）は、複数のアクセラレータを入居させそのプログラムを並立実施させるのに加えて（しかも、アクセラレータを1～数年ごとに入れ替え）、管理局も独自チャンネルで支援サービスを提供し、いわばアクセラレータとインキュベータを兼ね合わせたような形である。また多数の戦略的パートナーを擁しており、さらには支援対象のスタートアップもパートナー企業も国内に限らず海外アクターをも当初から視野に入れている点で、とりわけ特徴的なものとなっている。こうした手法は、既に新北市の「林口新創園」で試行したものを取り入れたものである。これが長期的に見て有効かどうかは、今後も観察を要する。

第4に、これまで台湾のスタートアップ関連活動は、台北市近隣の北部地域を中心に発展してきたものである（岸本，2021c）。高雄市の取り組みは、この偏りを是正し、「南台湾の国際的創業クラスター」を建設しようとする野心的なものである（kaohsiung-2023）。ただし、見様によっては、無制限にあるはずもない創業リソース（創業者人材、アイデア、支援のためのリソース）を分散させることでもあり、真に長期的な発展に繋がるのかどうかに関心が持たれる。

図まとめ-1 近年の高雄市における産業革新の流れ



(出所) 筆者作成。

謝辞：本研究の過程で、台湾と日本の多数の専門家、産業界・行政関係者から面談調査や情報収集に関して協力を得た。資金面では、JSPS 科研費 21K01669 の助成を受けた。ここに謹んで謝意を表したい。ただし、本稿にありうべき誤りは全て筆者が責任を負うべきものである。

## 参考文献

### <日本語>

- 岸本千佳司 (2021a) 「アクセラレータによるスタートアップ・コミュニティの構築：台湾の AppWorks (之初創投) の事例研究」『赤門マネジメント・レビュー』20 巻 1・2 号 (2021 年 4 月), pp. 1~42
- 岸本千佳司 (2021b) 「スタートアップ・アクセラレータの戦略の進化：台湾の『交通大学産業アクセラレータ (IAPS)』の事例研究」AGI Working Paper Vol. 2021-06
- 岸本千佳司 (2021c) 「台湾のスタートアップ・エコシステムの発展：『エコシステム』としての全体像の把握を目指して」『東アジアへの視点』第 32 巻 2 号 (2021 年 12 月号), pp. 19~79
- 岸本千佳司 (2022) 「コーポレート・アクセラレータの戦略ストーリー：台湾の StarFab Accelerator の事例研究」『東アジアへの視点』第 33 巻 2 号 (2022 年 12 月号), pp. 42~79
- 岸本千佳司 (2023) 「コミュニティ・ベースのアクセラレータ運営：台湾の Epoch Foundation / Garage+ の事例研究」AGI Working Paper Vol. 2022-11
- 田代智治, 岸本千佳司 (2021) 「エコシステムにおけるアクセラレーターの発展と重要性：定義とその特徴の体系的・包括的理解」『中小企業季報』(大阪経済大学) 2021, No. 3・4 合併号 (2021 年 10 月), pp. 11~28
- 古田清史 (2022) 「高雄市におけるスタートアップ支援機関『亜湾新創園』の開設と 5G・AIoT 関連の新たな産業クラスター形成の取り組みについて」『交流』(2022.2) No. 971, pp. 15~19

### <中国語>

- 葛祐豪 (2019) 「蔡英文發表『大南方, 大發展』南台灣發展計畫」『自由時報』(2019.12.14) (<https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3009120> 2023 年 3 月 25 日閲覧)
- 葛祐豪 (2022) 「強化亞灣 5G AIoT 生態系 高市府 006688 專案延長至年底」『自由財經』(2022.7.20) (<https://ec.ltn.com.tw/article/breakingnews/3997843> 2023 年 3 月 25 日閲覧)
- 葛祐豪 (2023a) 「高市府啟動亞灣 2.0 計畫 43 公頃國營土地都計變更」『自由財經』(2023.2.18) (<https://ec.ltn.com.tw/article/breakingnews/4214924> 2023 年 3 月 30 日閲覧)
- 葛祐豪 (2023b) 「開發費 52 億 楠梓產業園區納南科」『自由時報』(2023.3.7) (<https://news.ltn.com.tw/news/Kaohsiung/paper/1570736> 2023 年 3 月 30 日閲覧)
- Gwen (2022) 「你的企業能跟上 5G AIoT 的火車頭嗎？」『南主角』(2022.1.22)

(<https://master-south.tw/article/articledetail/1808> 2023年3月30日閲覧)  
經濟部技術處 (2023) 「『亞灣 5G AIoT 創新園區』創造 327 億產值成果豐碩 跨部會攜手打造南臺灣下世代科技應用之先驅」經濟部技術處ウェブサイト『最新消息』(2023.1.4)  
([https://www.moea.gov.tw/MNS/doi/news/News.aspx?kind=1&menu\\_id=13419&news\\_id=104216](https://www.moea.gov.tw/MNS/doi/news/News.aspx?kind=1&menu_id=13419&news_id=104216)  
2023年3月28日閲覧)  
經濟部中小企業處 (2022) 「111 年度 綠色科技新創獎勵競賽 申請須知」  
([https://www.yawan-startup.tw/en/News\\_Card\\_Content.aspx?n=1532&s=4583](https://www.yawan-startup.tw/en/News_Card_Content.aspx?n=1532&s=4583) 2023年3月15日  
閲覧)  
金屬工業研究發展中心 (2022) 「亞灣相關落地計畫」2022年3月29日  
(<https://www.mircd.org.tw/download/member/亞灣相關落地計畫.pdf> 2023年3月15日閲覧)  
高雄市 (2023) 「高雄新創環境」, 高雄市におけるスタートアップ推進の紹介資料 (2023年2月9  
日 高雄市政府經濟發展局訪問時に入手)  
林耀文 (2022a) 「推動南科高雄第三園區設置串連路科, 橋科 北高雄房市將大發展」『自由時報』  
(2022.8.15) (<https://estate.ltn.com.tw/article/14550> 2023年3月30日閲覧)  
林耀文 (2022b) 「仁武產業園區轉型 增人口紅利與就業」『自由時報』(2022.9.8)  
(<https://estate.ltn.com.tw/article/14706> 2023年3月30日閲覧)  
羅之盈 (2021) 「台積電證實設廠高雄! 『南部半導體 S 廊帶』已現?」『遠見』(2021.11.10)  
(<https://www.gvm.com.tw/article/84053> 2023年3月30日閲覧)  
王雯玲 (2021) 「亞洲新灣區人才培育基地 CG ARK 夢想方舟開幕」『台灣好報』(2021.12.27)  
(<https://www.newstaiwan.tw/newspage.php?nnid=322758> 2023年3月28日閲覧)  
魏嘉宏 (2022) 「高雄『亞灣 5G AIoT 創新園區』簡介」亞洲新灣區 5G AIoT 創新園區專案辦公室  
2022年1月24日 ([https://asiabay.org.tw/open\\_data](https://asiabay.org.tw/open_data) 2023年3月15日閲覧)

#### <英語>

Startup Terrace Kaohsiung (2023) “Startup Terrace Kaohsiung”, 亞灣新創園紹介資料 (2023年2月9  
日 亞灣新創園訪問時に入手)

#### <面談調査記録> (コード, 面談対象, 実施日時)

kaohsiung-2023 高雄市政府經濟發展局関係者および KO-IN 智高點の運営者 2023年2月9日  
(高雄市府稅行政ビル内にて実施)

yawan-2023 亞灣新創園 專案辦公室主任 Mr. 游立光, 計畫主持人 Mr. 翁銘章,  
2023年3月7日 (オンラインで実施)

#### <ウェブサイト URL>

駁二共創基地 <https://www.pier2base.tw>

DAKUO 高雄市數位內容創意中心 <https://dakuo.co/>

林口新創園 <https://www.startupterrace.tw/>

高雄軟體園區 <https://www.ksp.org.tw/>

KO-IN 智高點 <https://koin.kcg.gov.tw>

物聯網智造基地 [https://www.ideas-hatch.com/iot\\_service\\_hub.jsp](https://www.ideas-hatch.com/iot_service_hub.jsp)

亞灣 5G AIoT 創新園區 <https://asiabay.org.tw/>

亞灣新創園 <https://www.yawan-startup.tw/>